

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900284		
法人名	医療法人内田会		
事業所名	グループホーム「虹」		
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446-2		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念として「家庭的な環境づくり」「個性を大切に」「地域・家族とのふれあい」の3つを理念としている。特徴としては同一法人に医療機関、介護老人保健施設、デイケア、サービス付き高齢者向け住宅があり利用者の希望、必要性に応じて幅広いサービスを受けることができる。急変時などには迅速に適切な対応を取れる体制を構築している。又地域との関わりを大切にしており、ボランティアの積極的な受け入れや、近隣の小学校とは開設当初から交流を図っており、地域の行事や、学校行事には積極的に参加している。グループホームから老健やサ高住に散歩がてら遊びに行ったりサ高住から訪問してくれたり同一法人内での交流も持てる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな山間部に位置しており、共有空間の大きな窓から季節の移り変わりを感じる事ができるようになっている。利用者の好みや力を活かしつつ、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしたり、洗濯物を干したりして、一人ひとりの生活習慣を尊重し、自分らしい暮らしが続けられるようにしている。家族の協力を得るなどして、日常的な外出支援にも、積極的に取り組んでおり、歩行困難な場合でも、車椅子や車等を利用するなどして支援している。地域の行事やイベントに、利用者や家族、職員で参加するなどして、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう努めている。地域の小学生の来訪を受け入れるなどして、利用者との交流の機会を設け、双方向の関係を構築している。管理者は、職員の資格取得等を積極的に支援しており、働く意欲や専門性の向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「家庭的な環境づくり」「個性を大切に」「地域・家族とのふれあい」の3つを理念としている。以前の理念が長く覚えにくかった為基本は変えず短く覚え易いものに変更した。朝礼時に職員で復唱し理念の共有、確認をしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義や福祉の役割を踏まえた理念を作成している。職員間で話し合うなどして、理念の共有化を図っている。管理者は、利用者や家族、地域の住民等にも理念について話しをするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には、地元のボランティアを積極的に受け入れている。また地域のお祭り、行事や一斉清掃にも積極的に参加している。	事業所では、地域のしめ縄張りや清掃活動に参加している。利用者と職員は、近隣に散歩や買い物に出かけたり、地域の住民と挨拶を交わしたりしている。年3回、事業所では、小学生との交流学習を受け入れており、積極的に交流が図られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のホーム便り等を通して自分たちの取り組みを公開し、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度事業所にて開催している。利用者や家族の意見、評価について話し合いを行い事業所の質の向上に活かすようにしている。	運営推進会議では、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みを伝えるなどしている。家族会で出された意見や希望、提案等を議題として取り上げ、出席者から具体的な助言を得ている。出された意見や助言は、職員間で話し合うなどして、運営面に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。疑問点などあればその都度質問したり協力関係を築いている。	市担当窓口に出向くなどして、直接話すことができるよう心がけている。事業所は、市担当者の来訪の機会を得るなどして、利用者の状況や事業所の取り組みを話すなどして、情報の共有を図っている。ヒヤリ・ハット等の報告を行い、課題解決に向けた協力関係が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例がない。身体拘束を行わないような支援している。必要となった場合のマニュアルは作成している。身体拘束禁止の勉強会を行っている。	事業所内で身体拘束の廃止に関する勉強会を開催している。日々のケアのなかで、OJTを繰り返しながら、ミーティングを通じて、身体拘束をしないケアについて話し合っている。管理者と職員は、利用者の人権を尊重しつつ、安全に配慮し、一人ひとりの自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行いどのような行為が虐待になるのか等具体的に学べる機会を設けている。日頃の業務においては常に注意を払い虐待防止に努めている。又職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。過去において成年後見制度の利用の経験があり、その際に制度について学ぶ機会が持てた。今後活かしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改定の際には書面及び口頭で丁寧な説明を行い疑問点を残さないように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の意見に真剣に耳を傾ける様にしている。直接意見を聞くことの出来る機会として、運営推進会議や、家族会を役立てている。その取り組みを質の向上に活かしたい。	年1回、事業所では、家族会を開催するなどし、家族や利用者の意見や希望等が得られるようにしている。利用者や職員は、日頃の利用者との関わりのなかから、利用者の意見や意向を汲み取り、ケアにつなげている。職員は、家族の来訪時には、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見等は、職員間で話し合うなどして、速やかに運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会などで職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見はそのままにせず検討し改善している。部会には理事長、事務長、施設長も参加し職員の意見を聞く機会を設け運営に活かすよう取り組んでいる。	月1回、事業所では、ミーティング時に、職員のケアに関するアイデアや提案を聞くようにしている。管理者は、職員と日頃からコミュニケーションを図るよう心がけており、一人ひとりが意見を表出しやすい関係づくりに努めている。出された意見は、管理者が代表者に伝えるなどして、職員が意欲を持ち働き続けられるよう、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価は適切に行えている。また職員の意見に耳を傾けてやりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に勤務希望は優先し、資格が取り易い勤務体制にしている。スキルアップ研修等の情報は随時閲覧し研修参加の機会が多い。又内外講師の研修を行い、職員は真剣に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して同業者との交流を図る機会が多い。情報交換に努めておりよりよいサービスの質の向上を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見は十分傾聴し必要時には家族に付き添ってもらう時間を増やすなど本人の不安を取り除けるよう配慮している。入居後もコミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見、不安、要望など傾聴しながら施設でできることできないこと等細やかな説明を行っている。また、気軽に施設に立ち寄って頂きご理解を深めて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設や関連施設以外でも相談者の状況によって適切な施設利用ができるよう説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性や生活歴に配慮し、興味を持って接している。また挨拶やお礼は入居者、職員の垣根なく双方が意識しなくても言い合える関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援なしには事業所の円滑な運営は難しいと考えている。家族と連携をとり共に支えあう事が出来る様に信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人愛用していた馴染みの物は持ち込んで頂き常的に使っている。また在宅生活時に利用していた美容院などは継続して利用されている。	事業所では、本人や関係者等の協力を得るなどして、利用者がこれまで培ってきた人間関係等の把握に努めている。利用者と職員は、地域の敬老会に参加し地域住民と交流したり、一時帰宅して、郵便物の確認や庭の草抜きをしたりしている。職員は、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃より利用者同士の人間関係に常に気を使っており、必要に応じ職員が仲介等を行っている。又ユニット間での交流も日常的にあり広く関わりが持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った場合には退居先への連絡は書面や口頭で適切に行っておりその際の相談にも積極的に応じている。職員が退居先に面会に行くこともあり退居後の交流も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通し本人や家族の意向の把握に努め、適切に対応している。協力医療機関以外の受診などにも必要に応じて行っている。	職員は、日頃から、利用者との会話等から思いや希望を把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や言動等から把握したり、家族や関係者等から情報を得るようにしており、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には利用者の生活歴を正しく把握するようにしており、その事をサービスの向上に活かせるようにしている。又適宜、見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の状態を正確に把握し、記録を取っている。把握した情報を基にケアプラン会議を行い職員間で情報共有しプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者、職員と話し合い本人の現状を把握し意見交換、検討し介護計画に反映している。状態が変わったなど必要に応じて見直し、変更を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりに担当制を採り入れており、利用者の思いを介護計画に反映することができるようにしている。本人のできる事や得意な事が、継続できるよう目標に取り入れ、定期的なモニタリングや状態・要望の変化に応じて見直しがされている。毎月、職員は、家族に請求書の送付時に“メッセージカード”を同封するなどして、利用者の生活の様子を伝えるなどして、評価が得られるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の入所者の暮らしに関する個別記録を作成して、介護計画やサービスの質の向上に反映している。職員間での話し合いも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望などは様々あるが、それを理解してサービスに反映している。事業所のもっている多機能性を生かし、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の状況に応じ、その生活の安定と広がりを持って暮らしていけるよう地域の商店や福祉施設、警察署、消防、文化施設等に協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に対して協力医療機関と連携し、利用者の支援が適切に行えるように取り組んでいる。又要望があればその他の医療機関の受診も支援している	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。家族の協力を得て、専門科の受診ができるようにしている。なお、受診結果は家族と事業所間で共有している。協力医療機関の協力を得るなどして、利用者の健康管理を行い、夜間も含め緊急時等の体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為など適切に支援を行っている。又看護職と介護職の連携を円滑に取れるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と連携を図っており、利用者の方が安心して治療できるよう情報交換を密に図ったうえで支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備えて、早期段階で家族や主治医、職員間で話し合っている。事業所のできることや方針の説明を行い理解して頂き今後の支援を検討している。また過去の事例や経験を活かして日頃から対策に取り組んでいる。	契約時の段階で、重度化した場合や終末期に事業所の考え方や方針、事業所のできることを、本人や家族に説明している。職員や関係者間で話し合うようにし、寝たきりにならないよう予防に努め、寝巻きを着替えて少しずつ、共有フロアで過ごす時間を設けるなどしている。職員は、家族や医療機関と連携しチームでの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと定期的に応急手当等の訓練を行っている。事業所にAEDを備えている為緊急時の対応の研修に参加し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての訓練も定期的を実施し、緊急時マニュアルや緊急連絡網も整備している。火災通報装置とスプリンクラー等の設備も整っている。	年2回、事業所では、避難訓練を実施しているが、近隣の住民や消防団等の協力体制の構築に向けた取り組みは十分とはいえない。	今後は、職員間で話し合うなどして、避難時の役割等を明確にし、全職員が実践できるよう検討されたい。また、運営推進会議で議題とするなどして、地域の住民等に協力が得られるよう努められたい。また、土砂災害等についても、関係者間で話し合いの機会を設けられるようにされたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者のプライバシーやプライドに対しては十分な配慮している。一人一人の生活歴を把握しその方に応じた対応を心掛けている。	事業所では、利用者の尊厳とプライバシーの確保に努め、一人ひとりの気持ちを大切にしている。職員は、さりげない言葉かけや誘導時の声かけや対応に配慮している。職員間で、利用者の誇りを傷つけることがないよう、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をよく傾聴して、相手の要求や希望への把握に努めて出来る限りその意向を引き出すようにしている。その日の衣類選びや好みの飲み物など生活場面でも選択できる場面では自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活ペースに合うよう支援し、出来ない事も有るが出来る限り尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後化粧をされる方もいれば、白髪が気になれば自ら希望されなじみの美容室へ出かけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や形態は、一人一人に合わせて提供している。自分の好きな佃煮などのご飯のお供がそれぞれにあり希望に応じて提供している。又食事の盛り付けや配膳、片付けなども自然な流れで手伝っている。	事業所では、煮炊きする際の、匂いや包丁の音を共有空間で感じることができ、利用者にとって食事がたのしみなものとなるようにしている。利用者と職員は、調理の下ごしらえや盛り付け、配膳、後片付け等を行っている。また、同じテーブルを囲んで、会話をしながら食事をするなどしており、食事が、利用者の心身の力の維持や向上につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べる量を主食と副食に分けて記録している。又同様に水分摂取量も記録して本人の健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1日3回口腔ケアを実施している。その際口腔内の様子や食べ物が残っていないかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は極力減らすように支援している。利用者一人一人の特徴に応じてトイレ誘導やPTイレを使用している。記録もとっている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、排泄の自立に向けて、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。さりげない誘導やブライドを傷つけない対応に努め、利用者が気持ちよく排泄をすることができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取量に注意して便秘の防止に努めている。バナナやヤクルト等本人が排便を促しやすいと希望される食物も個々に提供している。必要に応じて下剤の投与も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は事業所が設定しているが、体調や気分により入浴できない場合は別日に入浴していただいている。清潔保持の為汚染など必要時には適宜実施している。	事業所では、特浴が整備されており、利用者の心身の状況に応じて、活用することで、安心感を持ってもらえるよう工夫をしている。少なくとも週2回は入浴することができるよう支援している。シャンプーや石鹸などは、利用者の好みを把握して、くつろいだ気分で入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で落ち着いて過ごせる様に好みや習慣に応じて生活用品等を備えている。季節に応じて快適に入眠が出来る様に室温や衣類、寝具等を整えてたり飲み物等の提供も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方が服用している薬に関しては、服薬情報をファイリングしその効能と副作用を全職員が理解できるようにしており内容も随時更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活や好み習慣等を把握している。それに基づいて役割を持つてお手伝いや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から季節によって近所を散歩している。又車を使用してドライブや買い物、遠出の機会を多く取るようにしている。	事業所では、利用者の希望にそった外出支援に努めている。季候の良い日には、利用者と職員で、近隣に散歩に出かけており、季節感を感じたり、日光浴を楽しんだりしている。家族の協力を得て、一時帰宅や買い物等にも出かけられるようにしている。他の施設に入所している家族に会いに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すだち 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には買い物等の金銭を利用する努力している。又金銭管理の困難な方にもなるべく買い物などの機会を持って頂けるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用などは適切に行っている。本人と家族との会話を楽しんでもらっている。手紙についてもプライバシーに十分に配慮や尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や自室の飾りつけに季節感を取り入れるように工夫している。又季節に応じて温度や湿度の管理をしている。音や光も利用者の希望に沿えるように努めている。	共有空間は明るく、清潔な環境の保持や、室温等にも配慮している。利用者間で、会話を楽しんだり、カラオケをしたりして、その人らしい時間を過ごすことができるような空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレの使用時や入浴時のプライバシーには十分に配慮している。又利用者同士がフロアで談笑したり、ユニットが違ってても気の合う同士自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は、本人や家族の意見を取り入れ快適過ごしてもらえるよう配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限に尊重している。	事業所では、居室に、ベッドと収納が備えてあるが、利用者の使い慣れた家具や好みの品物を居室に持ち込んでもらっている。鉢植えや椅子を置いている方もいる。利用者と職員が話し合うなどして、知人や友人、家族が居室で、過ごしやすい雰囲気となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動を妨げないようにホールや居室内の障害物を撤去している。居室やトイレなどの表示を大きくし迷わない工夫をし出来る限り自立して生活を送って頂いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「家庭的な環境づくり」「個性を大切に」「地域・家族とのふれあい」の3つを理念としている。以前の理念が長く覚えにくかった為基本は変えず短く覚え易いものに変更した。朝礼時に職員で復唱し理念の共有、確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には、地元のボランティアを積極的に受け入れている。また地域のお祭り、行事や一斉清掃にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のホーム便り等を通して自分たちの取り組みを公開し、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度事業所にて開催している。利用者や家族の意見、評価について話し合いを行い事業所の質の向上に活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。疑問点などあればその都度質問したり協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例がない。身体拘束を行わないような支援している。必要となった場合のマニュアルは作成している。身体拘束禁止の勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行いどのような行為が虐待になるのか等具体的に学べる機会を設けている。日頃の業務においては常に注意を払い虐待防止に努めている。又職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っている。過去において成年後見制度の利用の経験があり、その際に制度について学ぶ機会が持てた。今後活かしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や改定の際には書面及び口頭で丁寧な説明を行い疑問点を残さないように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族の意見に真剣に耳を傾ける様にしている。直接意見を聞くことの出来る機会として、運営推進会議や、家族会を役立てている。その取り組みを質の向上に活かしたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会などで職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見はそのままにせず検討し改善している。部会には理事長、事務長、施設長も参加し職員の意見を聞く機会を設け運営に活かすよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務評価は適切に行えている。また職員の意見に耳を傾けてやりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に勤務希望は優先し、資格が取り易い勤務体制にしている。スキルアップ研修等の情報は随時回覧し研修参加の機会が多い。又内外講師の研修を行い、職員は真剣に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通して同業者との交流を図る機会が多い。情報交換に努めておりよりよいサービスの質の向上を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見は十分傾聴し必要時には家族に付き添ってもらう時間を増やすなど本人の不安を取り除けるよう配慮している。入居後もコミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意見、不安、要望など傾聴しながら施設でできることできないこと等細やかな説明を行っている。また、気軽に施設に立ち寄って頂きご理解を深めて頂き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設や関連施設以外でも相談者の状況によって適切な施設利用ができるよう説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性や生活歴に配慮し、興味を持って接している。また挨拶やお礼は入居者、職員の垣根なく双方が意識しなくても言い合える関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援なしには事業所の円滑な運営は難しいと考えている。家族と連携をとり共に支えあう事が出来る様に信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人愛用していた馴染みの物は持ち込んで頂き常的に使っている。また在宅生活時に利用していた美容院などは継続して利用されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃より利用者同士の人間関係に常に気を使っており、必要に応じ職員が仲介等を行っている。又ユニット間での交流も日常的にあり広く関わりが持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った場合には退居先への連絡は書面や口頭で適切に行っておりその際の相談にも積極的に応じている。職員が退居先に面会に行くこともあり退居後の交流も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話を通し本人や家族の意向の把握に努め、適切に対応している。協力医療機関以外の受診などにも必要に応じて行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には利用者の生活歴を正しく把握するようにしており、その事をサービスの向上に活かせるようにしている。又適宜、見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の状態を正確に把握し、記録を取っている。把握した情報を基にケアプラン会議を行い職員間で情報共有しプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者、職員と話し合い本人の現状を把握し意見交換、検討し介護計画に反映している。状態が変わったなど必要に応じて見直し、変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の入所者の暮らしに関する個別記録を作成して、介護計画やサービスの質の向上に反映している。職員間での話し合いも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望などは様々あるが、それを理解してサービスに反映している。事業所のもっている多機能性を生かし、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人一人の状況に応じ、その生活の安定と広がりを持って暮らしていけるよう地域の商店や福祉施設、警察署、消防、文化施設等に協力を働き掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に対して協力医療機関と連携し、利用者の支援が適切に行えるように取り組んでいる。又要望があればその他の医療機関の受診も支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為など適切に支援を行っている。又看護職と介護職の連携を円滑に取れるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関と連携を図っており、利用者の方が安心して治療できるよう情報交換を密に図ったうえで支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に備えて、早期段階で家族や主治医、職員間で話し合っている。事業所のできることや方針の説明を行い理解して頂き今後の支援を検討している。また過去の事例や経験を活かして日頃から対策に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもと定期的に応急手当等の訓練を行っている。事業所にAEDを備えている為緊急時の対応の研修に参加し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての訓練も定期的実施し、緊急時マニュアルや緊急連絡網も整備している。火災通報装置とスプリンクラー等の設備も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者のプライバシーやプライドに対しては十分な配慮している。一人一人の生活歴を把握しその方に応じた対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をよく傾聴して、相手の要求や希望への把握に努めて出来る限りその意向を引き出すようにしている。その日の衣類選びや好みの飲み物など生活場面でも選択できる場面では自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活ペースに合うよう支援し、出来ない事も有るが出来る限り尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後化粧をされる方もいれば、白髪が気になれば自ら希望されなじみの美容室へ出かけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や形態は、一人一人に合わせて提供している。自分の好きな佃煮などのご飯のお供がそれぞれにあり希望に応じて提供している。又食事の盛り付けや配膳、片付けなども自然な流れで手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食べる量を主食と副食に分けて記録している。又同様に水分摂取量も記録して本人の健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1日3回口腔ケアを実施している。その際口腔内の様子や食べ物が残っていないかチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等の使用は極力減らすように支援している。利用者一人一人の特徴に応じてトイレ誘導やトイレを使用している。記録もとっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取量に注意して便秘の防止に努めている。バナナやヤクルト等本人が排便を促しやすいと希望される食物も個々に提供している。必要に応じて下剤の投与も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間は事業所が設定しているが、体調や気分により入浴できない場合は別日に入浴していただいている。清潔保持の為汚染など必要時には適宜実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が居室で落ち着いて過ごせる様に好みや習慣に応じて生活用品等を備えている。季節に応じて快適に入眠が出来る様に室温や衣類、寝具等を整えてたり飲み物等の提供も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方が服用している薬に関しては、服薬情報をファイリングしその効能と副作用を全職員が理解できるようにしており内容も随時更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活や好み習慣等を把握している。それに基づいて役割を持ってお手伝いや趣味活動を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から季節によって近所を散歩している。又車を使用してドライブや買い物、遠出の機会を多く取るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			あい 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には買い物等の金銭を利用する努力している。又金銭管理の困難な方にもなるべく買い物などの機会を持って頂けるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用などは適切に行っている。本人と家族との会話を楽しんでもらっている。手紙についてもプライバシーに十分に配慮や尊重している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所や自室の飾りつけに季節感を取り入れるように工夫している。又季節に応じて温度や湿度の管理をしている。音や光も利用者の希望に沿えるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレの使用時や入浴時のプライバシーには十分に配慮している。又利用者同士がフロアで談笑したり、ユニットが違ってても気の合う同士自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は、本人や家族の意見を取り入れ快適過ごしてもらえるよう配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限に尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動を妨げないようにホールや居室内の障害物を撤去している。居室やトイレなどの表示を大きくし迷わない工夫をし出来る限り自立して生活を送って頂いている。		